

屬する部落。

ムカヒヤマ 向山 河北郡五ヶ庄に屬する部落。

ムカヒヤマ 向山 モカイ ヤマイ 河北郡常徳の内の小字。

ムカヒヤマ 向山 珠洲郡仁江の内の小字。

ムカキ 向井 鳳至郡石井の内の小字。

ムカキゲンシヨウ 向井元升 諱は以順。肥前の儒醫である。萬治元年京に移り住んだが、藩の老臣前田孝貞は綱紀の飲食調理の参考に供する爲、之に屬して一書を編せしめた。元升則ち庖厨備用倭名本草十三巻を作り、寛文十二年に至つて功を竣つた。

ムカガウラ 麥ヶ浦 鳳至郡南北郷に屬する部落。天文元年七月諸橋六郷南北棟敷註文にはむぎの浦と記する。

ムカガウラコウ 麥ヶ浦港 鳳至郡中居港の支港で、港口は南面する。

ムカガクチ 麥ヶ口 モガクチ 能美郡輕海郷に屬し、上麥ヶ口・下麥ヶ口二部落に分かれる。郷村名義抄に、村の上に麥ヶ谷といふ谷があるから名を得るとあり。加越關評記享祿四年朝倉宗滴加賀に出馬の條に、『明日は原・麥ヶ口・山内を政候べし。』とあるも是である。

ムキノ 麥野 ↓ムギフノ 麥生野。

ムギフ 麥生 羽昨郡押水北庄に屬する部落。三州奇談に麥生の懐古と題する一章がある。

ムギフノ 麥生野 鳳至郡中町野郷に屬する部落。同郡東村八幡寺所藏大般若經奥書に貞治三年修補したことを記して『上町野郷庄麥野村預所菅原尙重』と見える。この麥野も亦麥生野に同じい。

ムギフハチマンシヤ 麥生八幡社 羽昨郡麥生に在つた。三州奇談に『麥生村の向うなる松中に式内相見神社立給ふ。此麓には八幡宮の社建ちたり。是は新に莊殿かゞやきて、金光燦爛とし、神事祭禮に相撲なども有て、近郷の賑ひ、新來の宮立ながら時めき見ゆ。思ふに國祖の菅君彼未森戰勝の御陣場なれば、此八幡は陣具を集めて祭らるゝのよし聞ゆ。尤さも有べき体也。』と記する。この社は今無い。

ムクゲナガシ 木槿流 江沼郡山中温泉で、湯尻から流れる溝を、木槿の葉を以て洗ひ清める行事である。もと毎年夏の土用中一回之を行うた。

ムクミオカチ 六組御歩 ↓カチ 歩。

ムクミゴフチニントラムラ 六組御扶持人十村 御扶持人十村であるが、配下に組を有せぬものをいふ。外に無組御扶持人十村並・無組御扶持人十村列があつた。

ムクミツキヒトモチ 無組附人持 横山氏正統系圖に『横山權八郎、延寶五年新知千石を賜はり、無組附人持』とある權八郎は、後兄の歿後父の家祿を嗣ぎ、山城守任風と稱したものである。無組附人持は人持待遇であるが、組頭の監督に屬せぬをいふのであらう。

ムクラガハラ 荳原 源平盛衰記壽永二年に、源義仲の將余田次郎等が、安樂寺から金峰坂を經、北黒坂を繞り、俱利伽羅の西荳原に向かふとある。越登賀三州志に、この荳原を河北郡俱利伽羅村の西端であるとも、又は今の原村であるともいふ説を擧げてあるが附會に過ぎぬ。按ずるに單に荳の生茂つた原といふことであらう。

ムゲコウシユウ 無碍光宗 蓮如が文明五年十月附の帖外御文に、『近比就_レ牢人出張之儀、自_レ諸方_レ種々雜說申_レ之條、言語道斷迷惑之次第也。予更於_レ所領所帶、且_レ不作_レ其望之間、以_レ何可_レ處_レ其罪咎哉、不運之至、悲而猶有_レ餘者歎云々。』というてゐる。蓋し吉崎御坊の日に熾盛となるに及び、門末の徒牢人に引率せられて、或は蓮如の指揮に因るが如く裝ひ、或は宗門の利益を増進せんが爲であると偽り、他の私領を占領するものがあつたのであらう。尋尊大僧正記文明六年十一月朔日の條に、當時の風聞によつて、加賀の一向宗土民が無碍光宗と稱して侍分と争ひ、爲に國中より驅逐せられたとのことを記すもの、即ち是と同じであらう。

ムケンチキメダカ 無檢地極高 ↓キメダカ 極高。

ムサシガツジ 武藏ヶ辻 金澤堤町と袋町及び近江町と安江町間の十字路をいふ。往昔武藏庄兵衛の邸地がこゝに在つたに因つて名を得る。

ムサシシヨウベエ 武藏庄兵衛 金澤家柄町人の一人。その元祖は石黒庄兵衛とも、武藏庄兵衛とも稱し、城州伏見に居住して、前田利家の伏見に居た頃諸事用向を承り、次いで金澤に移り、慶長十七年に歿した。二代庄兵衛は利常の時の人で、寛永十八年歿し、その後代々庄兵衛の名を襲いで町年寄に任じ、藩侯謁見の特典を得、その家の在る所を遂に武藏ヶ辻と稱せられるに至つたが、明治廿一年屋敷を賣却して去つた。

ムジ 無地 藩政の時、山入の地又は高以外、川縁・山際などの作物を植ゑ得ぬ所を無地とも空地とも稱へ、御郡奉行の支配に屬した。

ムシオクリ 虫送 稻虫を驅除すること、藩政時代には、毎夏土用中に村方一同松明に點火し、その區域内を繞るをいひ、河北・石川兩郡では藩侯の居城に近いから、虫送太鼓を打つにその届出許可を要した。このことは元祿元年に初つたといふ。能美郡でも御扶持人から虫送太鼓に付いて届出たが許可を要せず、他の諸郡は自由であつた。

ムシガミネ 虫ヶ峰 羽昨郡日用部落の東北に當る山。高さ三〇〇米。地質輝石安山岩。

ムシガヲシヤ 虫ヶ尾社 能美郡牛首川の土流赤岩の地にありて、享保年間創建と傳へ、もと不動明王を安置し、境内に大桂があるから桂の宮ともいふた。越前名蹟考に、『立岩より一里行き、左の方の林中に、大磐石の上に社有り。虫の尾の蓮華童子といふ。其磐石の上、社の後に大木あり。根は磐石をからみて土なし。山桂の木なり。こゝより一潮湯までは、一里ばかりあり。』と記する。この社は縣の明細帳に記載せぬものであつたが、昭和九年七月十一日の手取川洪水に流失した。

ムシコ むしこ 金澤等にて町家の街路に接する前面に飯め込みたる竹質製の戸で、賣むしこともいふた。『上使御通之節むしこ不残はづし屏風立可申候。』などある。

ムシサキ 虫崎 サキ 鹿島郡庵の内の小字。

ムジダカ 無地高 藩政の時、草高の名義のみ存して、實際の地所なきものをいふた。例へば田畠の面積に石盛を乗じて之を合算し